

一般県道殿下福井線 日光橋

(平成22年10月17日開通)

事業概要

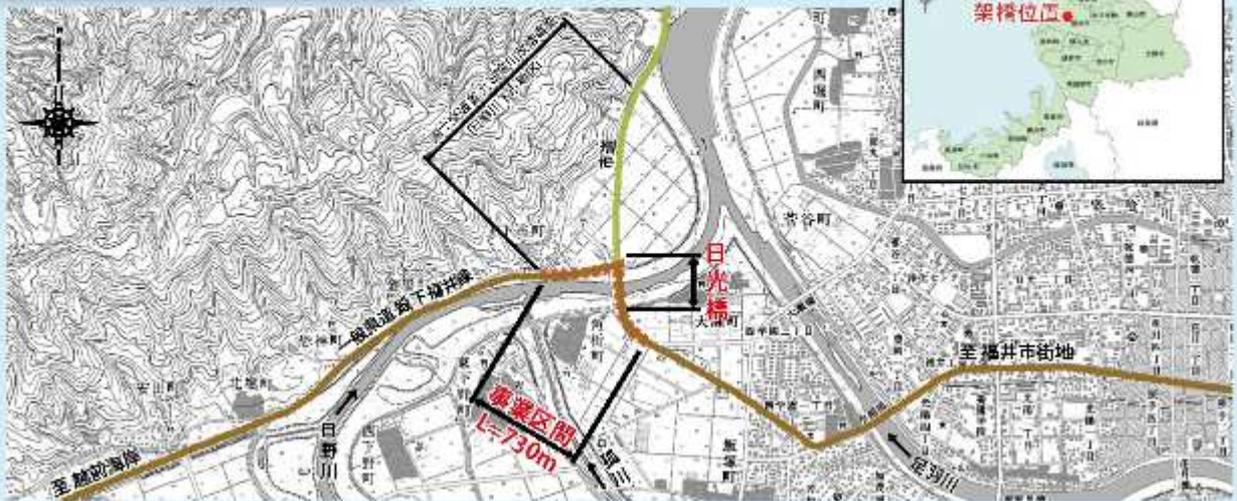
一般県道殿下福井線は、福井市の殿下地区を起点とし、福井市街地へ至る延長約1.4kmの路線で、県内有数の観光地である越前海岸と福井市街地を最短で結ぶ観光ルートである。また、福井市と合併した旧越前村と福井市街地を結ぶ合併支援道路として位置づけられている。

その中で該当区間は、バス路線でありながら幅員狭小のため大型車のすれ違いが困難で、通学の歩行者も危険な状況であることから早急な改良が望まれていた。また、この付近の一級河川日野川は、国土交通省が河川改修事業（緊急対策特定区間）を進めており、老朽化が著しい昭和36年に架設された旧日光橋の架替えを一体的に行い、安全で円滑な交通を確保するものである。

事業名	社会資本整備総合交付金（橋梁整備） 九頭竜川改修事業（日野川下市地区）
路線名	一般県道 殿下福井線
地係	福井市下市町～大瀬町
総事業費	約36億円（うち 道路事業費 約21億円）
総延長	730m（標準幅員 9.75m）
道路構造規格	第3種第3級
設計速度	40km/h
事業期間	平成17年度～平成23年度



位置図

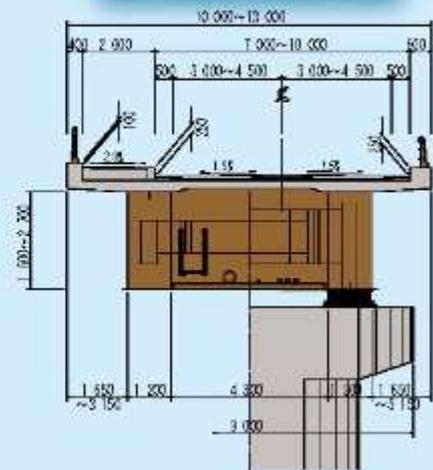


橋梁概要

橋 長 211.5m
 支 間 割 51.6m+53.0m+65.0m+39.6m
 総 幅 員 9.0m (車道 3.0m×2+0.5m×2=7.0m
 歩道 2.0m×1=2.0m)

設 計 荷 重 B活荷重
 上部構造形式 (鋼)4径間連続合成細幅箱桁橋
 下部構造 逆T式橋台・張出し式橋脚(小判形)
 基礎形式 鋼管杭・鋼管矢板基礎
 橋梁部事業費 約15億円(うち 道路事業費 約10億円)
 平成22年10月17日供用

断面図



景観について

高欄



橋桁のデザインに連続させ、均一な連続のデザインと取り入れたシンプルなデザインとしました。

照明



色は橋桁・高欄と同じダークブラウンとし、器具の存在感を抑えたシンプルなデザインとしました。

親柱



旧日光橋の親柱の特徴的なイメージを取り入れたデザインとしました。



全景写真 (右側が新しい日光橋)



新しい日光橋 (下市町より)

<開通式典の状況>



テープカット

青空に舞うエコロジー風船



住民ら約 300 人による渡り初め

福井市消防音楽隊

日光橋について

日光橋は日野川と狐川(旧足羽川)の合流地点近くに位置し、戦国時代には要害の地として、江戸時代から明治時代にかけては、日野川の舟渡場である安居大渡、小渡として栄えた場所、古来福井城下と越前海岸を結ぶ蒲生道の道筋としても、重要な役割を担ってきた。

明治の河川改修によって安居の舟渡場が消滅し、明治44年に渡船に代わって日光橋と小渡橋が架けられた。両橋は下市の錠者仁左衛門氏が付託によって架橋しようとしたが、資金不足のため、完成後はやむなく渡橋料をとって通行させたと云われている。

「日光橋」は「二光橋」とも呼ばれることもあり由来は不明確であるが『福井むかしばなし』によれば「底喰川の川主の大蛇が逃げて、足羽川と日野川の合流点の淵に移り住み、川の中ほどの大岩に毎夜二つの目を光らせ、川を渡る船頭から恐れられていた。それが『二光橋』の名のおこりにもなっている。」という説もある。

その後、大正3年に木造橋に架け替えられ、昭和36年にコンクリート橋となった後、今回鋼橋に架け替えられた。



明治初年成立の「越前三大川沿革図」日光川之図
「松平文庫」蔵(福井県立図書館保管)



昭和32年頃の二光橋(木橋)
「心のふる里」東安居郷土誌より



昭和36年から平成22年までの日光橋



川主の大蛇「福井むかしばなし」より